

ecoマルチ・ヒーポン仕様書

型 式	SCV-015AW-FA
-----	--------------

電 源	三相 200V 50Hz
-----	--------------

△ ③ 循環冷却(冷房)単独運転		
能 力	k W	30.5
冷温水入口	°C	12
冷温水出口	°C	7
流 量	m ³ /h	5.25
水圧損失	kPa	16.0
消費電力	k W	13.6
運転電流	A	54.6
外気条件	°C	35

△ ③ 循環加温(暖房)単独運転		
能 力	k W	38.3
冷温水入口	°C	40
冷温水出口	°C	45
流 量	m ³ /h	6.59
水圧損失	kPa	27.0
消費電力	k W	13.9
運転電流	A	56.9
外気条件	°C	7

△ ③ 瞬間給湯単独運転		
能 力	k W	55.1
給水入口	°C	17
給湯出口	°C	70
流 量	m ³ /h	0.89
給水圧力	MPa	使用条件範囲参照
消費電力	k W	15.9
運転電流	A	59.6
外気条件	°C	16

△ ③ 循環給湯昇温単独運転		
能 力	k W	48.9
給水入口	°C	50
給湯出口	°C	55
流 量	m ³ /h	8.41
水圧損失	kPa	36.0
消費電力	k W	16.5
運転電流	A	64.6
外気条件	°C	16

△ ③ 循環冷却+瞬間給湯同時運転		
能 力	k W	39.2
冷温水入口	°C	12
冷温水出口	°C	7
流 量	m ³ /h	6.74
水圧損失	kPa	21.0
能 力	k W	57.1
給水入口	°C	17
給湯出口	°C	70
流 量	m ³ /h	0.93
給水圧力	kPa	使用条件範囲参照
消費電力	k W	15.7
運転電流	A	61.0

△ ③ 循環冷却+循環給湯昇温同時運転		
能 力	k W	35.8
冷温水入口	°C	12
冷温水出口	°C	7
流 量	m ³ /h	6.16
水圧損失	kPa	17.0
能 力	k W	48.3
給水入口	°C	40
給湯出口	°C	45
流 量	m ³ /h	8.31
水圧損失	kPa	36.0
消費電力	k W	13.3
運転電流	A	52.8

- 圧縮機 全密閉スクロール圧縮機×1台
(電動機出力 11.25kW×1台)
(クランクケースヒーター 90W)
- 送風機 フローファン×2台
(電動機出力 0.75kW×2台)
- 水側熱交換器 プレート式
- 空気熱交換器 クロスフィンコイル
- 冷媒制御 機械式膨張弁+キャピラリーチューブ
- 冷媒 R410A (12kg チャージ済)
- 冷媒機油 ホリールエステル油 (3.25kg チャージ済)
- デフロスト 高温貯液冷媒供給方式
- 塗装色 マンセル (7.5Y8.5/1)

- 最大運転電流 75A
(圧縮機許容最大電流値より算出しています)
- 製品重量 500kg
- 運転重量 518kg
- 騒音値 60dB

【使用条件範囲】

項 目	単 位	条 件	
循環冷却(冷房)単独運転	入口温度	°C 11~35	
	出口温度	°C 5以上	
	入口出口温度差	°C 3~7	
循環加温(暖房)単独運転	外気温度	°C 20~40	
	入口温度	°C 35~50未満	
	出口温度	°C 55未満	
瞬間給湯単独運転	入口出口温度差	°C 3~10	
	外気温度	°C -10~40	
	入口温度	°C 35未満	
循環給湯昇温単独運転	出口温度	°C 70設定(変動幅±10)	
	外気温度	°C -10~40	
	必要給水圧力	MPa +0.2(±0.02)※1	
循環冷却+瞬間給湯同時運転	入口温度	°C 35~55未満※2	
	出口温度	°C 35~60以下	
	入口出口温度差	°C 3~10	
循環冷却+循環給湯昇温同時運転	外気温度	°C -10~40	
	冷却側	入口温度	°C 11~45未満
		出口温度	°C 5以上
給湯側	入口温度	°C 35未満	
	出口温度	°C 70設定(変動幅±7)	
	必要給水圧力	MPa +0.2(±0.02)※1	
昇温側(給湯側)	入口温度	°C 11~45未満	
	出口温度	°C 5以上	
	入口出口温度差	°C 3~7	
昇温側(給湯側)	入口温度	°C 35~50未満	
	出口温度	°C 55未満	
	入口出口温度差	°C 3~10	
水 圧	給湯回路	MPa 1.0以下 (循環運転時)	
	冷温水回路	MPa 1.0以下	
許 容 流 量	給湯回路(瞬間給湯時)	m ³ /h 制水弁による流量制御	
	給湯回路(循環給湯昇温時)	m ³ /h 7.8~12.0	
	冷温水回路	m ³ /h 6.0~12.0	
電 源 電 圧	運転時	- 定格電圧の±5%	
	始動時	- 定格電圧の±10%	
必要保有水量(配管含む)	相間アンバランス	- 2%以内	
	給湯回路	ℓ 1,000(循環で使用する場合)	
使用できない環境	冷温水回路	ℓ 1,000	
	水質	引火性・可燃性ガス雰囲気、腐食性ガス雰囲気、硫化化合物を含む雰囲気、エステル油成分を含む雰囲気、アンモニアガス雰囲気、潮風が直接当たる場所 JRA GL-02の水質基準に適合する水質※別表参照	

- 注意
- 1) 使用条件範囲は必ず守って下さい。
 - 2) 許容流量内であっても、入口温度、出口温度、入口出口温度差が条件範囲に収まっていない場合は条件範囲外となります。
 - 3) 水質に関しては別紙「仕様書2」水質基準を参考にして下さい。
 - 4) ※1必要給水圧力は本体から貯湯タンク位置の水頭圧に対して+0.2MPa必要になります。△
 - 5) ※2循環給湯昇温単独運転時 起動時の入口温度は55°C未満になるように設計して下さい。△△
 - 6) 保有水量はシステムにより計算の上決定して下さい。△

来 歴	△ 能力値変更と使用条件範囲変更	AWFA500002	20121113	栗田	三角法	承認	審査	設計	製図	尺 度	A-3 1/20	品 名	ecoマルチ・ヒーポン仕様書1
	△ 水圧損失・能力訂正	AWFA500001	20120506	小山									
記 事	△ 使用条件範囲変更	AWFA500000	20120401	小山	△	図 番	AWFA-5000	サイエンス株式会社	装 置 名	SCV-015AW-FA			
	通知番号	年月日	氏名										

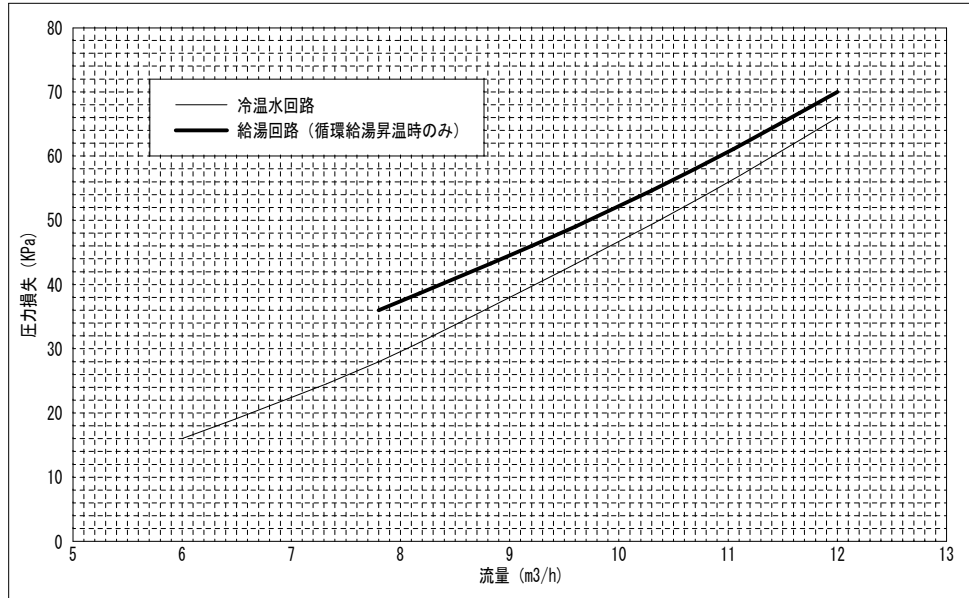
水質基準

JRA-GL-02

項目	冷却水系			冷水系		温水系				傾向	
	循環式		一過式	循環水 20℃ 以下	補給水	低位中温水系		高位中温水系		腐食	スケール
	循環水	補給水	一過水			循環水 20~60℃	補給水	循環水 60~90℃	補給水		
pH [25℃]	6.5~8.2	6.5~8.0	6.8~8.0	6.8~8.0	6.8~8.0	7.0~8.0	7.0~8.0	7.0~8.0	7.0~8.0	○	○
伝導率 [25℃] (mS/cm)	800以下	300以下	400以下	400以下	300以下	300以下	300以下	300以下	300以下	○	○
塩化物イオン (mgCl ⁻ /%)	200以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	30以下	30以下	○	
硫酸イオン (mgSO ₄ ²⁻ /%)	200以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	30以下	30以下	○	
酸消費量 [pH 4.8] (mgCaCO ₃ /%)	100以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下		○
全硬度 (mgCaCO ₃ /%)	200以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下		○
カルシウム硬度 (mgCaCO ₃ /%)	150以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下		○
イオン状シリカ (mgSiO ₂ /%)	50以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下		○
鉄 (mgFe/%)	1.0以下	0.3以下	1.0以下	1.0以下	0.3以下	1.0以下	0.3以下	1.0以下	0.3以下	○	○
銅 (mgCu/%)	0.3以下	0.1以下	1.0以下	1.0以下	0.1以下	1.0以下	0.1以下	1.0以下	0.1以下	○	
硫化物イオン (mgS ²⁻ /%)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	○	
アンモニウムイオン (mgNH ₄ ⁺ /%)	1.0以下	0.1以下	1.0以下	1.0以下	0.1以下	0.3以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下		○
残留塩素 (mgCl/%)	0.3以下	0.3以下	0.3以下	0.3以下	0.3以下	0.25以下	0.3以下	0.1以下	0.3以下		○
遊離炭酸 (mgCO ₂ /%)	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	○	

- 注意 1) 不検出とは検出されないこと。
 2) 欄内の○印は腐食又はスケール生成傾向に関する因子。
 3) 基準値内でも使用できない場合があります。基準値内を確認の上、使用可能か当社にて最終判断を致します。

水圧損失△



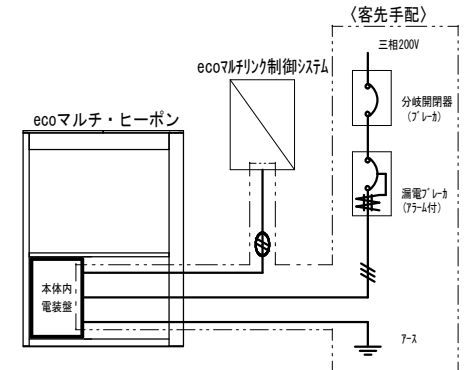
保護装置

項目	機器	設定値
コックレッサー吐出圧力 高圧異常	高圧圧力スイッチ (63CH1)	4.2 MPa
コックレッサーモーター 過電流	サーマルレ (51C)	7.5 A
コックレッサー吐出冷媒温度 高温異常	吐出管サセ (23T11)	120℃
冷温水水熱交換器 凍結異常	凍結防止サセ (水熱交換体) (23SC1)	5℃
	凍結防止サセ (冷媒管) (23SC2)	0℃
コックレッサー吸入圧力 低圧異常	低圧圧力スイッチ (63L2)	0.2 MPa
ファンモーター 過電流	サーマルレ (51F1, 51F2)	3.6 A
給湯出口温度 高温異常	給湯出口管サセ (23Q0)	85℃
瞬間給湯時 給水入口 温度上昇保護	給湯入口管サセ (23Q1N)	35℃
循環給湯昇温時 給水入口 温度上昇保護	給湯入口管サセ (23Q1N)	60℃以上停止 ⇄ 57℃未満 自動復帰
循環加熱時 冷温水入口 温度上昇保護	冷温水入口管サセ (23R1N)	52℃以上停止 ⇄ 50℃未満 自動復帰
循環冷却時 冷温水入口 温度低下保護	冷温水入口管サセ (23R1N)	9℃未満停止 ⇄ 11℃以上 自動復帰
電動弁 動作不良	電動弁 (20WB)	渋滞異常検知
熱電対 不良	各サセ (23_) × 8ヶ	断線又は接続不良

- 注意 1) 保護装置はecoマルチ制御システムと通信をして動作致します。
 2) 保護装置設定値の変更は行わないで下さい。

電気設備仕様

項目	型式
電源	SCV-015AW-FA
最大運転電流値 (A)	三相 200V 50Hz
推奨主電源電線サイズ (mm)	7.5
推奨アース用電線サイズ (mm)	3.8
ecoマルチ制御システム HUB信号線電線サイズ (mm)	1.4
推奨漏電ブレーカ定格電流 (A)	0.5-2C (シールド線) ※1 推奨: オナパ製 OTSC-1PVB 0.5mm
	1.25



- 注意 1) 主電源電線サイズは線種、施工方法、引込線取付点から本体接続点までの距離により異なります。実際には現場での施工状況に合わせて最大運転電流値を参考に配線設計を行って下さい。
 2) ※1 信号線に関して、短距離でサイズの影響がない場合はVCTFで配線可能です。また、サイズの影響がある場合はシールド付ツイストケーブルが、距離がある場合は低抵抗 (33.4Ω/km) が必要になります。
 3) ecoマルチ制御システムで複数台連結制御する際の信号線配線方法は施工上の注意点を参考にして下さい。

来歴	△					承認	審査	設計	製図	尺度	A-3 1/20	品名	ecoマルチ・ヒーポン 仕様書2
	△					井ノ川	飯島	小山	小山		2011年10月16日		
△	水圧損失 グラフを訂正	AWFA500100	20120419	小山								設置名	SCV-015AW-FA
△	記 事	通知番号	年月日	氏名	サイエンス株式会社					図番	AWFA-5001		

施工上の注意点

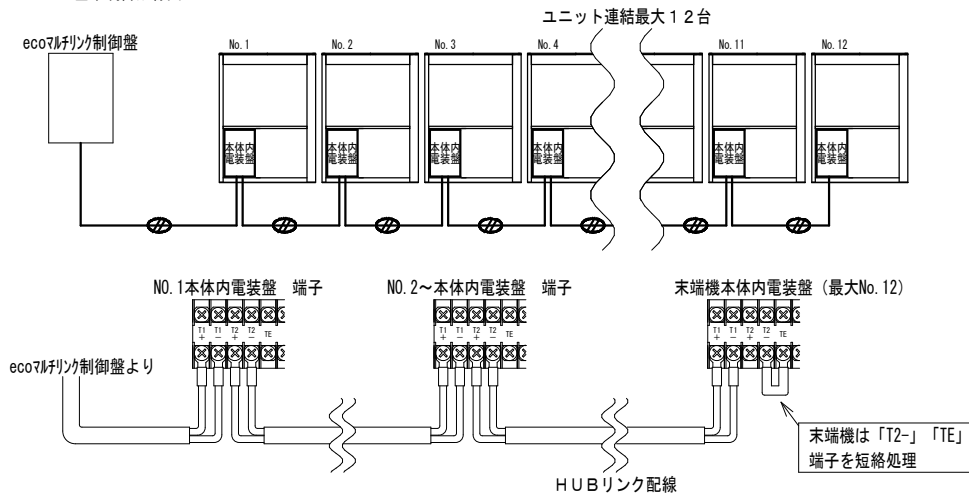
(1) 設置場所における注意点

- 設置場所が運転重量に十分耐える強度であること。※オプションで防振架台を用意しています。
- 据付基礎が水平かつ平面であること。
- 据付基礎の水はけがよいこと。ドレン排水がしっかり処理できること。
- 通風が十分に確保されていること。屋内に設置する場合は十分な給換気設備を有していること。
- 季節風に対して影響を受けない向きに設置されている、もしくは防風壁等で対策がされていること。
- メンテナンススペースが十分に確保できていること。
- 空気熱交換器がショートサーキットを起こさないようスペースを十分確保できていること。
- 設置場所における敷地境界線の騒音規制値をクリアしていること。
※設置状況によっては反響音等により仕様より大きな運転音になる場合がございます。
- 防雪対策がしっかりとされていること。基礎の高さは予測降雪量の2倍程度として下さい。防雪フードによる対策を行って下さい。
- 山間部や樹木の多い箇所では落葉対策がされていること。
- 機器周りの雰囲気(腐食性ガス等の影響を含む可能性がある場合は、十分に注意して下さい。
※排気場の煙や排気ガス(地下駐車場等や交通量の多い道路脇)も腐食性を持つことがあります。十分注意して下さい。
- 塩害の影響を受ける可能性がある設置場所では耐塩害塗装・重耐塩害塗装を必ず検討して下さい。
- ボイラー等他の熱源機器から、輻射熱の影響を受けないこと。

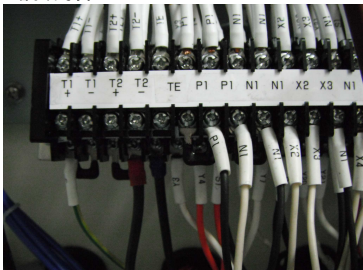
(2) 電気工事における注意点

漏電ブレーカ、電線サイズ、信号線配線は別紙「仕様書2」電気設備仕様を参考に配線設計して下さい。
ecoマルチ制御システム HUBリンク配線に関する注意点は基本制御配線図を参考に留意事項を守って配線を行って下さい。

■基本制御配線図



端子台写真



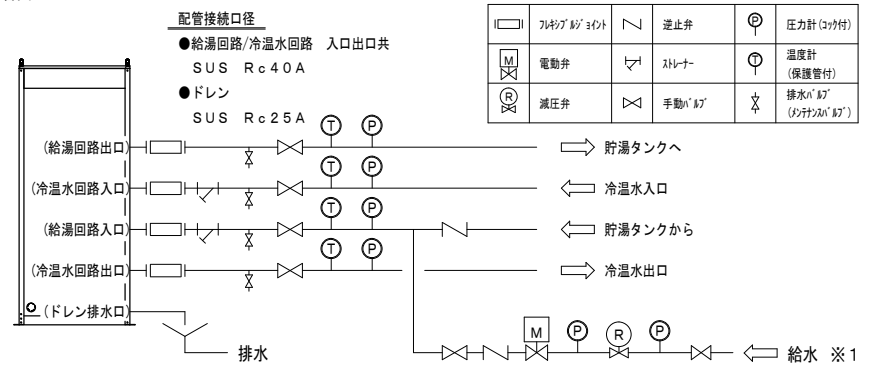
(留意事項)

- 信号線渡り配線は連結用信号口を使用して下さい。

(2) 配管施工上の注意点

基本配管図を参考に留意事項を守って配管を行って下さい。

■基本配管図



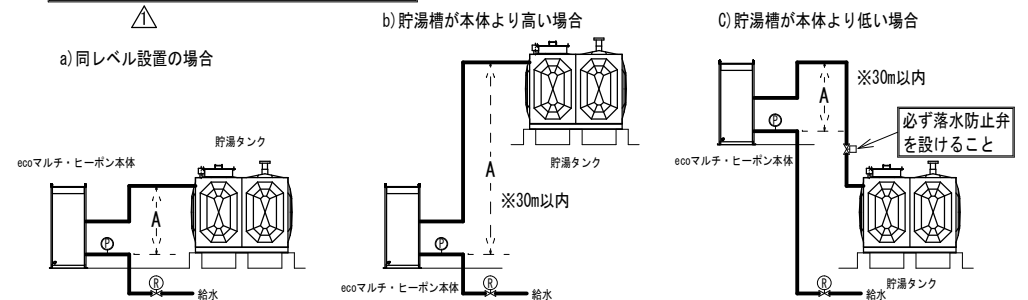
(留意事項)

- 機械入口側配管に循環ポンプを取り付けてください。機械入口が正圧になるように必ずして下さい。
- 本体水圧損失、及び配管水圧損失を十分に考慮した配管設計・ポンプ選定を行って下さい。
- 運転状態を確認するため、入口出口に圧力計と温度計を設けて下さい。
※給湯回路において、循環給湯昇温運転(単独・同時)を行わない場合は出口側に圧力計は必要ありません。
- 本体内部部品の交換 及び 洗浄等のサービスを行うために手動バルブ及び排水バルブを入口出口に設けて下さい。
- 装置の運転音や振動の伝播を防ぐために、フレキシブルジョイントを必ず設けて下さい。
- 給湯回路の電動バルブ設置位置は、機械給水入口から配管長約10m以内として下さい。
- 給水圧力は0.2MPa (±0.02) とし圧力変動が起こらないよう配管設計を行って下さい。
- 本体内部に異物の詰まりを防止するために、入口部には洗浄可能なストレーナを必ず設けて下さい。
(給湯回路入口は50メッシュ、冷水回路入口には20メッシュ)
- 本体接続口はSUS製となっております。異種金属接続にならないよう配管材質を選定、又は絶縁をして下さい。
- 複数台設置の場合、ヘッダー配管、リバースリターン配管等により各ユニットへの流量が均等になるよう配管設計をして下さい。
- ドレン排水口よりドレン配管を適切に行って下さい。藻の発生や錆等の原因となります。

■給水圧力の設定(瞬間給湯運転時)

給湯回路への給水圧力は必要に応じて減圧弁を設け適切な値を設定して下さい。
注意) 必要給湯圧力は本体から貯湯タンクへの全揚程圧力+0.2 (±0.02) となります。

全揚程 A + 0.2MPa (±0.02) に調整して下さい。



来歴	△					承認	審査	設計	製図	尺度	A-3 1/20	品名	ecoマルチ・ヒーポン 施工上の注意点
	△					井ノ川	飯島	小山	小山	2011年10月16日	2011年10月16日		
歴	△	給水圧力を0.15MPa⇒0.2MPaへ変更	AWFA500300	20120401	小山	サイエンス株式会社	図番	AWFA-5003	装置名	SCV-015AW-FA			
	△	記事	通知番号	年月日	氏名								

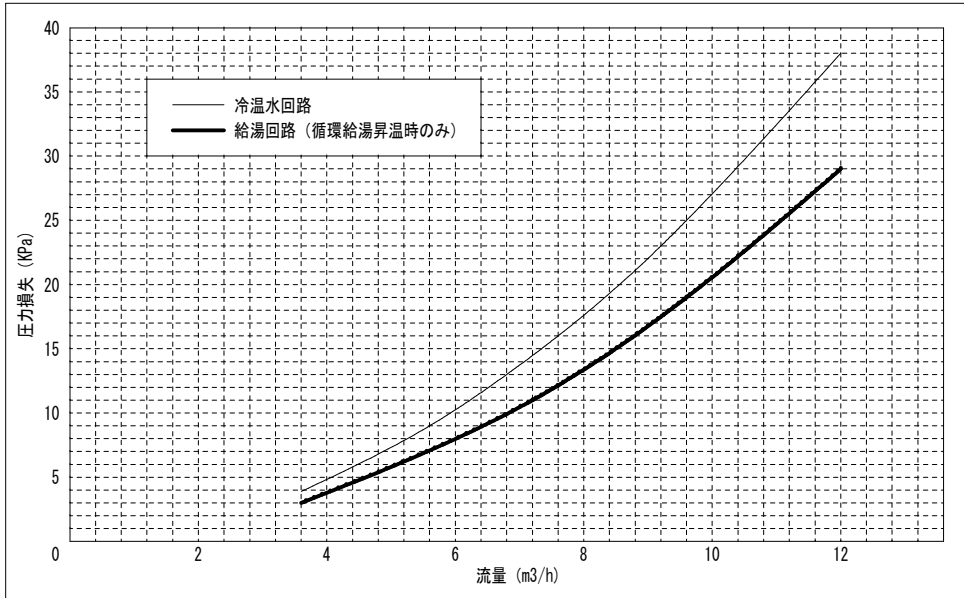
水質基準

JRA-GL-02

項目	冷却水系			冷水系		温水系				傾向	
	循環式		一過式	循環水 20℃ 以下	補給水	低位中温水系		高位中温水系		腐食	スケール
	循環水	補給水	一過水			循環水 20~60℃	補給水	循環水 60~90℃	補給水		
pH [25℃]	6.5~8.2	6.5~8.0	6.8~8.0	6.8~8.0	6.8~8.0	7.0~8.0	7.0~8.0	7.0~8.0	7.0~8.0	○	○
伝導率 [25℃] (mS/cm)	800以下	300以下	400以下	400以下	300以下	300以下	300以下	300以下	300以下	○	○
塩化物イオン (mgCl ⁻ /%)	200以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	30以下	30以下	○	
硫酸イオン (mgSO ₄ ²⁻ /%)	200以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	30以下	30以下	○	
酸消費量 [pH4.8] (mgCaCO ₃ /%)	100以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下		○
全硬度 (mgCaCO ₃ /%)	200以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下		○
カルシウム硬度 (mgCaCO ₃ /%)	150以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下		○
イオン状シリカ (mgSiO ₂ /%)	50以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下		○
鉄 (mgFe/%)	1.0以下	0.3以下	1.0以下	1.0以下	0.3以下	1.0以下	0.3以下	1.0以下	0.3以下	○	○
銅 (mgCu/%)	0.3以下	0.1以下	1.0以下	1.0以下	0.1以下	1.0以下	0.1以下	1.0以下	0.1以下	○	
硫化物イオン (mgS ²⁻ /%)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	○	
アンモニウムイオン (mgNH ₄ ⁺ /%)	1.0以下	0.1以下	1.0以下	1.0以下	0.1以下	0.3以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下		○
残留塩素 (mgCl/%)	0.3以下	0.3以下	0.3以下	0.3以下	0.3以下	0.25以下	0.3以下	0.1以下	0.3以下		○
遊離炭酸 (mgCO ₂ /%)	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	0.4以下	4.0以下	0.4以下	4.0以下		○

- 注意 1) 不検出とは検出されないこと。
 2) 欄内の○印は腐食又はスケール生成傾向に関する因子。
 3) 基準値内でも使用できない場合があります。基準値内を確認の上、使用可能か当社にて最終判断を致します。

水圧損失



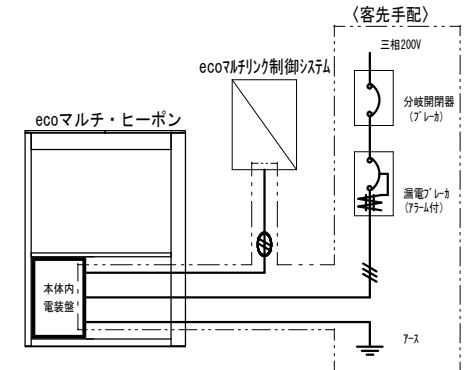
保護装置

項目	機器	設定値
コックレッサ-吐出圧力 高圧異常	高圧圧力スイッチ (63CH1)	4.2 MPa
コックレッサ-モーター 過電流	サーマルレ (51C)	75 A
コックレッサ-吐出冷媒温度 高温異常	吐出管サ-モ (23T11)	120℃
冷温水水熱交換器 凍結異常	凍結防止サ-モ (水熱交換体) (23SC1)	5℃
	凍結防止サ-モ (冷媒管) (23SC2)	0℃
コックレッサ-吸入圧力 低圧異常	低圧圧力スイッチ (63L2)	0.2 MPa
ファンモーター 過電流	サーマルレ (51F1, 51F2)	3.6 A
給湯出口温度 高温異常	給湯出口管サ-モ (23Q0)	85℃
瞬間給湯時 給水入口 温度上昇保護	給湯入口管サ-モ (23Q1N)	35℃
循環給湯昇温時 給水入口 温度上昇保護	給湯入口管サ-モ (23Q1N)	60℃以上停止⇔57℃未満 自動復帰
循環加熱時 冷温水入口 温度上昇保護	冷温水入口管サ-モ (23R1N)	52℃以上停止⇔50℃未満 自動復帰
循環冷却時 冷温水入口 温度低下保護	冷温水入口管サ-モ (23R1N)	9℃未満停止⇔11℃以上 自動復帰
電動弁 動作不良	電動弁 (20WB)	渋滞異常検知
熱電対 不良	各サ-モ (23_) × 8ヶ	断線又は接続不良

- 注意 1) 保護装置はecoマルチ制御システムと通信をして動作致します。
 2) 保護装置設定値の変更は行わないで下さい。

電気設備仕様

項目	型式	SCV-015AW-FA
電源	三相	200V 60Hz
最大運転電流値 (A)		75
推奨主電源電線サイズ (mm)		3.8
推奨アース用電線サイズ (mm)		1.4
ecoマルチ制御システム		0.5-2C (シールド線) ※1
HUBリリク信号線電線サイズ (mm)		推奨: オナジ製 OTSC-1PVB 0.5mm
推奨漏電ブレーカ定格電流 (A)		12.5



- 注意 1) 主電源電線サイズは線種、施工方法、引込線取付点から本体接続点までの距離により異なります。実際には現場での施工状況に合わせて最大運転電流値を参考に配線設計を行って下さい。
 2) ※1 信号線に関して、短距離でノイズの影響がない場合はVCTFで配線可能です。また、ノイズの影響がある場合はシールド付ケーブルが、距離がある場合は低抵抗 (33.4Ω/km) が必要になります。
 3) ecoマルチ制御システムで複数台連結制御する際の信号線配線方法は施工上の注意点を参考にして下さい。

来歴	承認	井ノ川 飯島	設計	小山	製図	小山	尺度	A-3 1/20	品名	ecoマルチ・ヒーポン 仕様書2
	製造						2011年10月16日			
記事	通知番号	年月日	氏名	サイエンス株式会社	図番	AWFA-6001	装置名	SCV-015AW-FA		

施工上の注意点

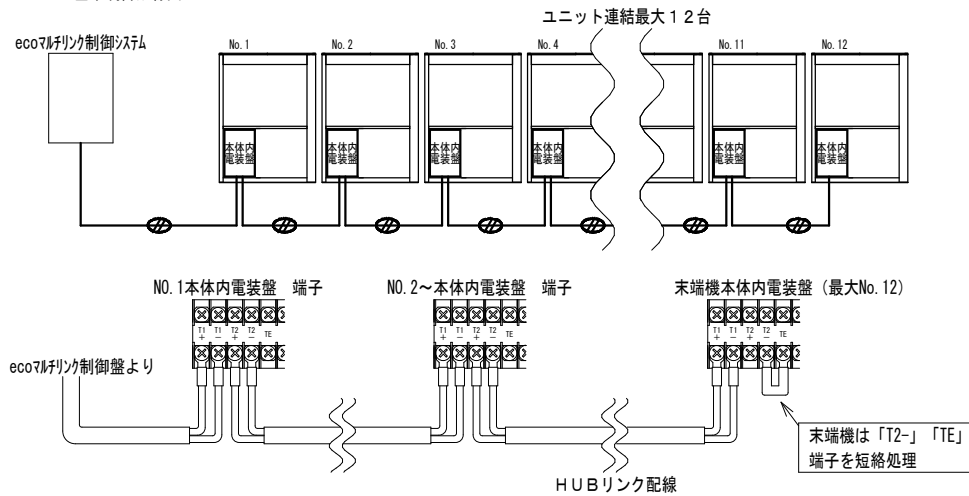
(1) 設置場所における注意点

- 設置場所が運転重量に十分耐える強度であること。※オプションで防振架台を用意しています。
- 据付基礎が水平かつ平面であること。
- 据付基礎の水はけがよいこと。ドレン排水がしっかり処理できること。
- 通風が十分に確保されていること。屋内に設置する場合は十分な給換気設備を有していること。
- 季節風に対して影響を受けない向きに設置されている、もしくは防風壁等で対策がされていること。
- メンテナンススペースが十分に確保できていること。
- 空気熱交換器がショートサーキットを起こさないようスペースを十分確保できていること。
- 設置場所における敷地境界線の騒音規制値をクリアしていること。
※設置状況によっては反響音等により仕様より大きな運転音になる場合がございます。
- 防雪対策がしっかりとされていること。基礎の高さは予測降雪量の2倍程度として下さい。防雪フードによる対策を行って下さい。
- 山間部や樹木の多い箇所では落葉対策がされていること。
- 機器周りの雰囲気(腐食性ガス等の影響を含む可能性がある場合は、十分に注意して下さい。
※排気場の煙や排気ガス(地下駐車場等や交通量の多い道路脇)も腐食性を持つことがあります。十分注意して下さい。
- 塩害の影響を受ける可能性がある設置場所では耐塩害塗装・重耐塩害塗装を必ず検討して下さい。
- ボイラー等他の熱源機器から、輻射熱の影響を受けないこと。

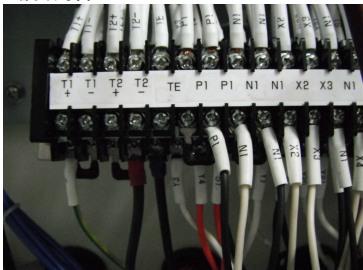
(2) 電気工事における注意点

漏電ブレーカ、電線サイズ、信号線配線は別紙「仕様書2」電気設備仕様を参考に配線設計して下さい。
ecoマルチ制御システム HUBリンク配線に関する注意点は基本制御配線図を参考に留意事項を守って配線を行って下さい。

■基本制御配線図



端子台写真



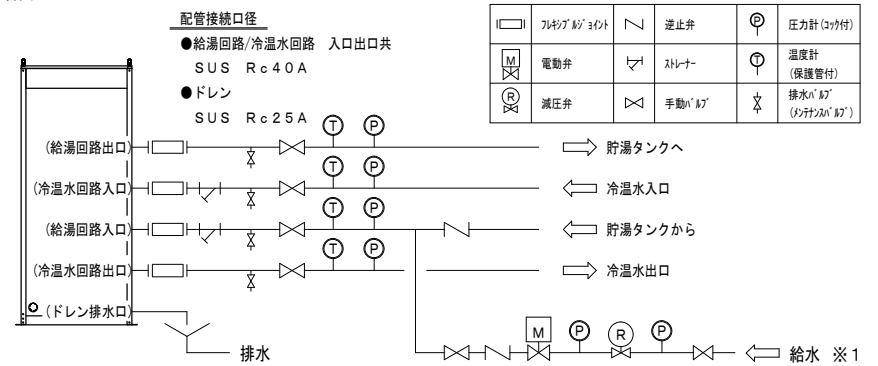
(留意事項)

- 信号線渡り配線は連結用信号口を使用して下さい。

(2) 配管施工上の注意点

基本配管図を参考に留意事項を守って配管を行って下さい。

■基本配管図



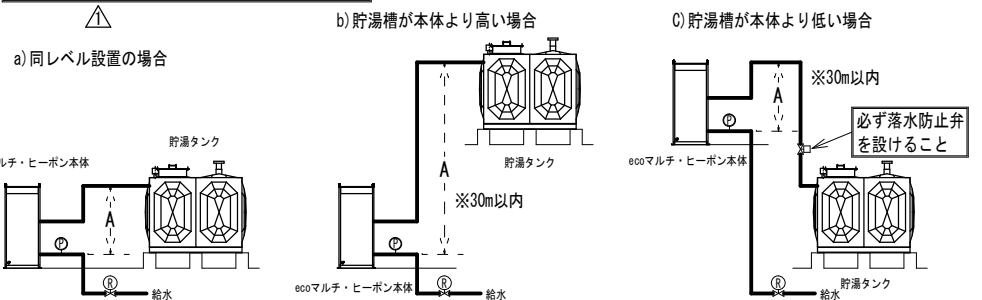
(留意事項)

- 機械入口側配管に循環ポンプを取り付けてください。機械入口が正圧になるように必ずして下さい。
- 本体水圧損失、及び配管水圧損失を十分に考慮した配管設計・ポンプ選定を行って下さい。
- 運転状態を確認するため、入口出口に圧力計と温度計を設けて下さい。
※給湯回路において、循環給湯昇温運転(単独・同時)を行わない場合は出口側に圧力計は必要ありません。
- 本体内部部品の交換 及び 洗浄等のサービスを行うために手動バルブ及び排水バルブを入口出口に設けて下さい。
- 装置の運転音や振動の伝播を防ぐために、フレキシブルジョイントを必ず設けて下さい。
- 給水配管の電動バルブ設置位置は、機械給水入口から配管長約10m以内として下さい。
- 給水圧力は0.2MPa(±0.02)とし圧力変動が起こらないよう配管設計を行って下さい。△
- 本体内部に異物の詰まりを防止するために、入口部には洗浄可能なストレーナーを必ず設けて下さい。
(給湯回路入口は50メッシュ、冷水回路入口には20メッシュ)
- 本体接続口はSUS製となっております。異種金属接続にならないよう配管材質を選定、又は絶縁をして下さい。
- 複数台設置の場合、ヘッダー配管、リバースリターン配管等により各ユニットへの流量が均等になるよう配管設計をして下さい。
- ドレン排水口よりドレン配管を適切に行って下さい。藻の発生や錆等の原因となります。

■給水圧力の設定(瞬間給湯運転時)

給湯回路への給水圧力は必要に応じて減圧弁を設け適切な値を設定して下さい。
注意)必要給湯圧力は本体から貯湯タンクへの全揚程圧力+0.2(±0.02)となります。

全揚程 A + 0.2MPa (±0.02) に調整して下さい。△



承認	井ノ川 飯島	設計	小山	製図	小山	尺度	A-3 1/20	品名	ecoマルチ・ヒーポン 施工上の注意点
承認	井ノ川 飯島	設計	小山	製図	小山	2011年10月16日		装置名	SCV-015AW-FA
変更	給水圧力を0.15MPa⇒0.2MPaへ変更	AWFA600300	20120401	小山					
履歴	記 事	通知番号	年月日	氏名	サイエンス株式会社	図番	AWFA-6003		